



家保通信

平成17年度 第8号

熊本県天草家畜保健衛生所

TEL 0969-22-3668

FAX 0969-24-4393

e-mail amakusakaho@pref.kumamoto.lg.jp

<http://www.pref.kumamoto.jp/construction/section/kaho/amakusa/amakusa-index.htm>

豚のインフルエンザ調査

熊本県天草家畜保健衛生所では、高病原性鳥インフルエンザの人への影響を監視するために、家きんのサーベイランス実施や発生を想定した防疫対応の強化の他に、豚のインフルエンザについてのサーベイランスも実施しています。

なぜ豚を調べるのか？

現在、高病原性鳥インフルエンザの発生地域では人への感染も報告されていますが、通常種によって感染するインフルエンザウイルスの型は決まっており、また、ウイルスが動物の細胞に進入する入り口（レセプター）の障害もあるため、種を超えた感染は簡単に起きることはありません。

しかしながら、

- ・ 1918年の新種ウイルスによるスペイン風邪の原因として豚インフルエンザが疑われていること。
- ・ 人のインフルエンザウイルスは、豚にも感染すること。
- ・ 豚は鳥と共通するレセプターを持っていること。

等により、裏面の図に示すように鳥インフルエンザウイルスは豚を介して変異し、人間に感染する新型インフルエンザウイルスが発生する可能性が心配されています。

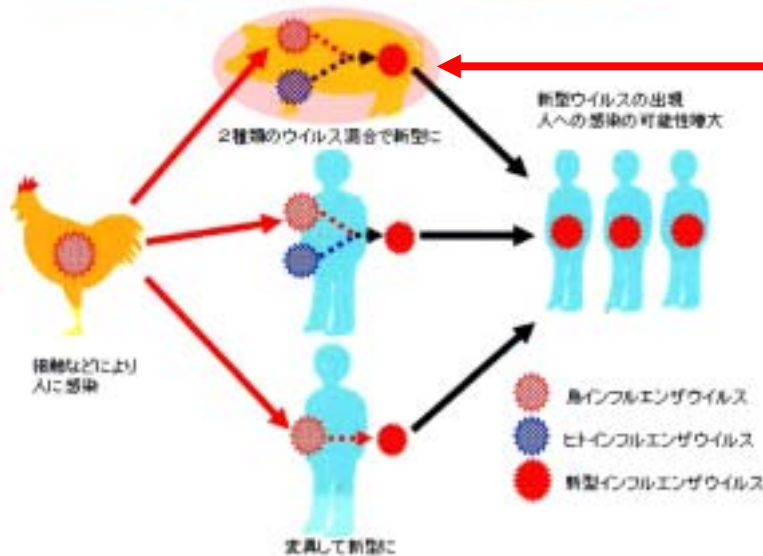
調査内容

天草家畜保健衛生所では動物由来感染症監視整備体制事業畜産型として、家保通信第6号で紹介しました教育現場型と同様に取り組んでいます。

家畜保健衛生所に、病性鑑定で搬入された呼吸器症状等の臨床症状を示した豚を対象とし、インフルエンザウイルスの分離検査を実施しています。

これまでの調査の結果では、インフルエンザウイルスは認められませんでした。

ヒトからヒトへ感染する新型インフルエンザウイルス出現の仕組み



鳥インフルエンザとヒト(豚)インフルエンザに同時に感染した場合、お互いの特性を持つ**新型インフルエンザ**が出現する可能性があります。これを**再集合**といいます。

豚のインフルエンザは感染していても普段症状を現すことは少なく、寒冷などのストレスで発生すれば通常、1群のほとんど全頭に発生が見られるのが特徴で、高熱を発し発咳などの呼吸器症状を起こします。重症でなければ、一週間ほどでほぼ回復します。

ウイルスが感染していても、豚は普段症状を現さない事があるため、新型インフルエンザの発生を未然に予防するため、豚と鶏の接触を避ける必要があります。

関係者の皆様の、ご理解ご協力をお願いします。